



保健師

細川

朝美

結核のお話

結核を知ることが予防の第一歩

皆さん結核という病気は知っていますか。高齢者の方々ならご存じだと思いますが、今の若い世代では知らない方が多いと思います。

結核は、明治時代から昭和20年代まで「国民病」「亡国病」と恐れられていました。かの有名な歌人、正岡子規や小説家の樋口一葉などこの病気で命を落としています。しかし、医療が進歩し栄養状態や生活水準が良くなるに連れ「亡国病」から「薬を飲めば治る病気」になり、死亡数も激減しました。1980年代になって、高まん延時代に感染した人々が高齢化し発病するようになったため、結核罹患率が鈍化しました。1999年には「結核緊急事態宣言」が発せられ、その後罹患率は低下しました。

しかし、現代において世の中の結核への関心が低下していることや、大半を占める高齢の患者さんは典型的な症状がないために発見が遅

れることがあり、しばしば集団感染

や予後不良に繋がっています。加えて近年では、若年者を中心に外国出生患者の占める割合が増加しています。日本では、今でも1万人以上が結核を発症しています。2021年は新規登録患者が1万1千519人、罹患率は人口10万人当たり9・2人、死亡者数が1千854人、死亡率は人口10万人当たり1・5人となっています。先進国では、2019年のデータですが、10万人当たりの罹患率が、アメリカは3人、ドイツは5・8人、オーストラリアは6・9人となっています。一方、発展途上国であるフィリピンは544人、インドネシアはア312人で、先進国と比べて多いことが課題となっておりま。

日本は先進国と比較すると、まだまだ多い状況にあり、制圧に向けて引き続き努力が必要です。

結核とはどんな病気？

結核菌によって主に肺に炎症が起きる病気です。肺以外にも病気を引き起こすことがあります。肺に炎症が起きた場合は、最初は風邪に似た症状で始まります。次のいずれかに当てはまる場合には早めに呼吸器専門医、もしくはかかりつけ医に受診しましょう。特に高齢者は、症状が出なくても毎年、胸部X線検査を受けましょう。

- ・痰のからむ咳、微熱、身体のだるさが2週間以上続いている。
 - ・体重が減ってきた、なんとなく食欲がない、近頃、寝汗をかいている。
- ※結核になりやすい人

- ・喫煙習慣がある人
- ・糖尿病の人
- ・HIV感染者や免疫の弱い人
- ・人工透析を受けている人
- ・ステロイドホルモンを使用している人

- ・胃潰瘍、胃の手術をした人
- ・結核高まん延国から来た外国出生者

結核はどのように感染しますか？

菌を出している肺結核患者の咳やくしゃみなどの「しぶき」といっしよに結核菌が空気中に飛び散り、それを周りの人が直接吸い込むことで人から人につります。これを空気感染と言います。

感染しても全ての人が発病するわけではありません。健康であれば、多くは免疫の働きによって結核菌を抑え込んでしまいます。

加齢や病気などで免疫力が落ちると、抑え込まれていた結核菌が再び活動をはじめ、発病することがあります。

感染しても発病していない「潜在性結核感染症」の人は、抗結核薬を3か月から6か月間飲むことで発病を予防できます。



結核は予防できますか？

子どもにはBCG接種が有効です。抵抗力の弱い赤ちゃんは、結核に感染すると重症になりやすく、予防にはBCG接種が有効です。自治体からの案内に従い生後5か月から8か月の間に受けましょう。成人は、健康的な生活が免疫力を高め、結核の予防につながります。早期発見が重症化を防ぎ、周囲への感染予防につながりますので、次のことに気をつけましょう

- ・ 適度な運動
- ・ 十分な睡眠
- ・ バランスの良い食事
- ・ タバコを吸わない
- ・ 定期的な健診

結核は治りますか？

痰に結核菌がいると、感染させる恐れがあるため、菌が出なくなるまで指定医療機関に入院が必要となります。

逆に感染の恐れがない患者さんは外来治療となります。治療内容としては、抗結核薬を6か月から9か月の間(患者さんによってはそれ以上かかる場合あり)毎日確実に服用することで治ります。

しかし、症状が無くなったからといって治療の途中で服薬をやめて

しまうと菌が抵抗力をつけ、薬が効かない結核菌になる危険性があり、治療が長引きます。

治療終了まで確実に服薬が行われるよう、入院中から退院後も医療機関と保健所が協力して服薬の支援を実施します。

結核は指定感染症のため、治療費用は、保健所に届け出をすることで公費負担が受けられます。治療を含め結核に関するご心配などは管轄の保健所である厚木保健福祉事務所(☎046(224)1111)へご相談ください。

みんなで協力して世界の結核をなくしていきましょう。

問 子育て健康福祉課健康福祉係
☎(288)3861



診療所だより



煤ヶ谷診療所
渡邊医師

発熱外来について

こんにちは、煤ヶ谷診療所の渡邊です。

今年の8月お盆の時期はかなり発熱外来の患者さんが増えましたので、発熱外来受診の仕方についてお話しします。

ワクチン接種の効果もあってか、重症化して肺炎症状を起こされる方はかなり少なく、大多数の方が風邪症状で受診されます。

発熱外来受診の際には、直接来院せず事前にお電話で症状についてご相談ください。時間帯を分けてご案内しているのは、狭い待合室で風邪症状の方と一般診療の方が混在しないようにするためです。

いつも飲んでいるお薬が欲しい場合でも、風邪症状があるときは先にご連絡ください。

また、受診する前にご自身でCOVID-19検査キットを使ってみてください。薬局などで購入することが可能です。受診前に陽性が判明している場合は室外での診察となります。

高齢の方、心臓や肺、腎臓に持病がある方、BMIが30を超える方にCOVID-19感染症に対するお薬を処方することがあります。これはリスクの高い方の重症化を予防するためであって、全員に処方するわけではありません。そのお薬は院外処方となるため、取り扱いのある薬局へ取りに行ってください。特にご承知おきください。特にリスクのない方には、対症療法として一般的なお薬を処方します。

発熱外来受診の仕方については、皆さんとスタッフを守るためです。スタッフの感染により診療所の機能が停止すると、みなさんのお薬を出せなくなってしまいます。どうぞご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

問 県立煤ヶ谷診療所 ☎(288)1352